The 37th Tokyo Motor Show
Passenger Cars & Motorcycles

No.24

東京モーターショーニュース
2003年11月3日発行

発行所　社団法人 日本自動車工業会 モーターショー統括部
〒100-0004　東京都千代田区大手町1丁目6番1号 大手町ビル
Publisher : Tokyo Motor Show Department, Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.
Otemachi Bldg., 1-6-1 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0004, JAPAN
TEL 03-3211-8919 FAX 03-3211-5798 WEBSITE www.tokyo-motorshow.com
JAMA

秋晴れの2日は、日曜日だけに多くの来場者が訪れ、人の流れは会場に向かって絶えることなく続いた。おだやかな陽気に誘われ会場内の休憩ゾーンにはたくさんのファミリーが訪れ、ピクニック気分で楽しんでいた。フェスティバルパークで展開されるトラフィック戦隊アンゼンジャーショーは相変わらずの人気だ。隣で行われた千葉県警による白バイデモにも人垣ができていた。

「走りの感動」を発信

新型「レガシィ」が出迎えてくれるスバルブース

SUBARU

ブルーの網目模様で覆われたユニークなデザイン構造のスバルブース。「ブルーコクーン」と呼ばれ、「SUBARU」のブランドビジョンを訴える場として、「走りの感動」などを表現した新しいデザインコンセプトを色々な視点から提案している。

「今年、創業50周年を迎えるスバルは、モーターショーの取り組みも一新します」。プレスブリーフィングの場で竹中恭二社長が力強く語った。ブランドメッセージは「Think. Feel. Drive」。ここ数年、市販モデルやその派生スタディモデル中心の展示を行ってきたスバルだが、今回は「SUBARU」ブランドが、将来どのような方向を目指して歩んでいくのかを徹底的に追求することに軸足を置き、展示内容も新しい技術を用いた魅力的なコンセプトモデルを揃えている。

WRC第12戦「ツール・ド・コルス」で総合優勝したインプレッサも展示

魅力いっぱいのコンセプトモデルを展示

最も注目を集めているのは、正面のメインステージにあるスバル独自のハイブリッドシステムを搭載したコンセプトモデル「B9 SCRAMBLER（ビー・ナイン スクランブラー）」。航空機をイメージしたデザインも革新的だが、心臓部であるSSHEVと呼ばれるハイブリッドシステムは、モーターとエンジンを併用して走行するパラレルハイブリッドと異なり、中低速はすべて電動モーターで走行し、エンジンは発電のみに使用し、その電気で走行するというシリーズハイブリッド方式である。時速80キロ近くまではモーターで強力な加速が得られ、モーターが苦手とする高速域では水平対向エンジンが直接動力を供給する。駆動方式はスバルの“お家芸”の4WDだ。

もう1台のコンセプトカー「R1e」は全長が軽自動車枠よりも小さい電気自動車だ。ミニマムカーにデザインの魅力を与えるため、細部にわたって入念に仕上げられている。従来のスモールカーのイメージを打破しようという意欲作である。

このほか、新開発の水平対向エンジンなどを横一線に並べている技術コーナーやWRC（世界ラリー選手権）関連の展示も充実している。またドライビングシミュレーターを設置し、来場者がスポーツ走行などを仮想体験できるなど、アミューズメント性も重視しており、ブース内は新鮮な驚きと感動に満ちている。

航空機をイメージした革新的なデザインの「B9 SCRAMBLER」

スモールカーのイメージを一新させる「R1e」

カットモデルや新開発の水平対向エンジンなどを展示している技術コーナー

TOPICS 空く時間のないプライオリティシート

お年寄りや身体の不自由な人だけでなく、若い人も、赤ちゃんを抱えた人も、いろいろな人が便利に使っているのがプライオリティシート。いつ行っても誰かが座っていてなかなかの“盛況ぶり”。赤ちゃんを連れて一休みしていた名古屋の加藤美恵さんは「子供がいるので、こういうの、とてもありがたい」と大歓迎。シルバー世代のご夫婦は「いつでも腰掛ける場所があるというのはとても安心感がある」と評価は高い。

TOPICS 何とゴミ半減！ ゴミに対する意識向上

会場にゴミが見当たらない。もらったカタログやパンフレットをポイ捨てする来場者はほとんどいない。論より証拠。10月31日までの可燃ゴミの収集量は59トン。前回（35回）の115トンの52%と、ほぼ半減している。場内でゴミ管理をしている千葉県ビルメンテナンス協同組合・伊藤さんの集計だ。「大半が昼食時の弁当箱や包装紙。そのゴミもゴミ箱に捨てられている」という。“国際”モーターショーを標榜する以上、きれいな会場は最低の条件。だからクリーンスタッフを平日で70～80人、週末には倍の150人前後を投入、ゴミの収集に力を入れている。

「伝統」が光り、「新進」が新たなジャンルを開く　外国車展示ブース

1台だけの展示ながら厳然たる存在感
ロールス・ロイス

中央ホールに位置するロールス・ロイスのブースで存在感を誇示しているのが、「ロールス・ロイス　ファントム」。今年1月に登場、日本でも11月から発売された。アルミ製スペースフレームを採用して軽量化と剛性を高めるとともに、V12・6.75リッターのエンジンは460馬力を発生する。低回転域の高トルクを特徴とし、高級乗用車に求められる静粛性と加速性を実現する。特別飼育した雄の成牛の皮革を特殊染色した内装、観音開きのリアドア、重厚なスタイル、そしてなによりも4,232万円（ツートンカラー塗装、2人乗りリアシート仕様）という価格を聞いて来場者の感嘆が漏れる。

「精密ハンドビルド」で送り出された「Rolls-Royce PHANTOM」

日本向けに「いつまでも、どこまでも」とメッセージ
ヒュンダイ

世界市場に急速に浸透しているヒュンダイ（現代）は、「Always there for you」と世界に向けて発信する。参考出品車「NEOS-II」と「ヒュンダイCCS」を中心に、意欲的な展示だ。

世界で初めて公開された「NEOS-II」は、近未来を見据えた新しいジャンルを提案するCUV（クロスオーバー・ユーティリティ・ビークル）。オリジナルデザインの大胆なスタイルは「力強い馬」をモチーフとしており、前後フェンダーは馬の四肢をイメージさせる。全長3,850mm、全幅1,775mmのコンパクトサイズながら、優雅さも採り入れた前席優先の2＋2である。

2005年の商品化を念頭に開発されたCUV「NEOS-II」

日本市場でのマーケティングとアピール狙う
キア

来場者の輪がひときわ目立つキア（起亜）のブースで、その輪の中心にあるのがコンセプトカー「KCV-3」。未来のキア車デザインを追及した小型クーペのコンバーチブルで、「若々しくスポーティでフレンドリー」というブランドイメージをベースに、高い機能性と安全性を盛り込んでいる。

オリジナルデザインだが、パリのウリエーズ社で製作されたヨーロッパテイストのスタイルは、20～30歳をターゲットにしたもの。ヒュンダイグループ・メーカーとしてブランドもアピールしているが、「すぐにでも日本で発売してほしい」という来場者の声も寄せられているという。

日本市場にもブランドをアピールする「KCV-3」

TOPICS　電子チケットの申し込み どこからでもOK

チケットぴあ

東京モーターショーの入場券を、どこからでも購入できるようにした電子チケットサービスを始めた。パソコンあるいはiモードの携帯電話（ケータイ）からインターネットで、電子チケットぴあの「@ぴあ」にアクセスして申し込む。チケットはデジタルセキュリティ・ポケット（デジポケ）に保管されるが、それをケータイにダウンロードして東京モーターショー会場のデジゲートと赤外線通信をしてレシート（チケットに相当）を取り出す仕組み。使えるケータイが限られるが、試してみては！

記者の目

インターセクション編集長
ダン・ロス さん（イギリス）

コンセプトカーが主張しあって素晴らしい

初めての取材。フランクフルトは会場が広くて疲れるが、東京モーターショーは歩きやすいレイアウトでうまくまとまっているし、ショー的要素があってとても良い。とくにコンセプトカーは秀逸。展示されているコンセプトカー同士が、まるで自分の素晴らしさを主張して会話しているような印象を受けた。日本車には前から興味を引かれていたが、実際見てみて好感触を得た。会場が都心に近ければベターだね。

みんなで考えよう　クルマの税金2003

（11月1日開催）　シンポジウム

◆コーディネーター
御堀 直嗣氏（モータージャーナリスト）
◆進行アシスタント
小山 好子氏
◆パネリスト
片山 右京氏（レーシングドライバー）
テリー伊藤氏（演出家）
林 広敏氏（日本自動車連盟理事・公益事業部長）

御堀 直嗣氏

片山 右京氏

テリー伊藤氏

「ご存じですか？現在、日本のクルマにかかる税金」。欧米諸国に比べて2～8倍もの極めて重い負担を強いられている自動車諸税について、ユーザーにわかりやすく問題を提起してくれたのがこのシンポジウム。有識者の立場から林氏が「我が国は取得、保有、走行の各段階で合計9種類もの税金が課せられている。しかも、購入時は消費税と自動車取得税との二重課税となっている」などと説明。

それを聞いて片山氏は「税の仕組みがそんな複雑でかつ難解であることは知らなかった」と思わず絶句。クルマ好きのテリー氏はマイカーを6台も保有しているそうだが「買う時は幾度も幾度もディーラーに通って、5万とか3万円とか恥ずかしいほどの思いをしてまで値引きしてもらうが、正直、税金には無関心だった」と本音を明かした後「日本人はお人好し過ぎる。不合理さを知ってしまった以上、あらゆる機会を捉えてすっきりとした税体系に変わるようにアピールしたい。自動車ユーザーのみなさんも一緒に立ち上がろう」と呼びかけると、満席の会場から喝采を浴びた。

高齢者のための車両安全対策　－第4回自動車安全シンポジウム－

（10月24日開催）　シンポジウム

第1部

◆基調講演
【車両安全対策の最新動向】
和迩健二氏
（国土交通省自動車交通局技術安全部技術企画課国際業務室長）

第2部

◆講師
【事故分析結果】
堀野 定雄氏（神奈川大学工学部助教授）
【高齢者の運転行動】
溝端 光雄氏（東京都老人総合研究所介護・生活基盤グループ副参事）
【高齢者の人体特性】
坂根 正孝氏（筑波大学臨床医学系講師）
◆パネリスト
犬養 智子氏（社会評論家）
山ノ井 利美氏（日本自動車工業会安全部会長）
木庭 強氏（警察庁交通局運転免許課課長補佐）
岩越 和紀氏（JAFMATE社代表取締役社長）

堀野 定雄氏

第1部で和迩氏は国土交通省の交通安全に対する最近の状況を説明するため「基本的な考え方」「新たに基準を導入することを決定した安全対策の項目」「今後の安全対策に関する検討の方向性」の3点について報告を行った。

第2部に入って堀野氏は「65歳以上の高齢者の死亡事故が顕著に増えている」と報告。さらに「高齢者に特有の事故があり、それを中心に対策を講ずることが得策」と対応方針を提案した。続いて溝端氏は「高齢者は認知判断が劣っていくということが今後の車両対策、交通教育のポイントになる」と指摘した。また坂根氏はバイオメカニクスの観点から「加齢に伴い骨量が低下し、転倒によって骨折しやすくなる」と述べ、注意を喚起した。このあと犬養、山ノ井、木庭、岩越の4氏が加わってディスカッションが行われ、幅広く討論が行われた。

今日のイベント（予定）

★ 白バイデモ
12:00～12:30　1回目デモ
14:00～14:30　2回目デモ
フェスティバルパーク（西休憩ゾーン）

★ トラフィック戦隊アンゼンジャーショー
11:00～11:30
13:00～13:30
16:00～16:30
フェスティバルパーク（西休憩ゾーン）

★ クリーンエネルギー車同乗試乗会
10:30～16:30　環境体験ランド（幕張海浜公園）

TOPICS　アンケートに大勢の人

スポンサーシップ・プログラム
昭和シェル石油

中央モールのちょうど中ほどでブルーのコスチュームに身をつつんだキャンペーン嬢が来場者に笑顔でパンフレットを手渡している。スポンサーシップ・プログラム参加企業の一社で、東京モーターショー初出品。目的は「企業イメージの浸透」。

エンジンをきれいにする画期的なハイオクガソリン「シェル　ピューラ」や、この10月に全面リニューアルし、ガソリンの値引きなどの特典がつくシェルスターレックスカードのPRを行っている。土・日・祝日に実施するオリジナルグッズがもらえるアンケートには大勢の来場者が参加、ひときわ盛り上がる。

11月2日の入場者数　**206,800人**　／　入場者数合計　**1,093,900人**

オンデマンド印刷機をたとえるなら
“最先端の燃料電池車”…?!
高度なスペックはもちろん、ソリューション例なども詳しく紹介しています。
DocuPlaza（ドキュプラザ）http://www.docu-plaza.com/

Color DocuTech 60
機材協力：富士ゼロックス株式会社
用紙協力：富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社
このニュースは「Color DocuTech 60」で、再生コート紙「eCOAT105」に出力しています。
eCOAT105
THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX